

取組：小・中・高の連携

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

令和2年度より、小中学校教員合同の研修会等を実施してきたが、校区それぞれにおける有効な連携にはつながっていない。また、高校では、中高連携を実施している学校はほとんどなく、指導の連続性が確保できていない。

Plan

- 研修会の日程や内容を調整し、教員が情報交換できる機会として小中高の異校種合同研修を実施。
- 情報交換テーマを「ICTの活用について」とする。1人1台端末の配付が進んでいるが、校種や学校により活用に差があるため、外国語科における効果的な活用を目指し、情報交換を行う。
- 情報交換の内容は、各校にて他の教員と共有することで、学校全体の指導力の向上につなげる。

Do

- 小学校教員対象の「英語力養成研修会」と、中学校・高校教員対象の「英語教員研修会」を同日、同会場で実施した。
- コロナ感染防止対策のもと、参集研修とし、教員が参加しやすいように、夏季休業中の開催とした。
- 県内を4地域に分け、さらに近隣の小中高校をすべて含んでグループを編成し、異校種交流の場を設定。
- 60分の研修とし、グループでの情報共有40分、全体での共有10分、大学教授からの講評10分で行った。

Check

- 教員アンケートによる意識調査
 - ・近隣の学校が、外国語科の指導において、実際にどのようなアプリ等を使用し、どのようにICTを活用しているのかが分かった。
 - ・他校種の指導法が非常に参考になり、その学びをつなげていきたいと感じた。
 - ・どのようなICTリテラシーをもった生徒が進学してくるのか、具体的なイメージがもてた。
- 英語教育実施状況調査等による数値検証
 - ・高等学校における小・中学校との連携
R元 (小)2.6%,(中)7.9%→R3 (小) 81.1%,(中)81.1%

Action

- 1人1台タブレット端末と個別最適化の学習を促進するためにも、小中高におけるICT等を活用した指導法の情報共有を継続実施。
- 他校種の指導法が参考になったとの声が多かったことから、新学習指導要領の実施において課題となっている評価について、それぞれの校種の視点による評価の在り方やその実践を学ぶ研修の場を設定。

成果の普及

- 全県立高校の学習到達目標を県内教員限定で公開
- 小中高全ての研修協力校の研究内容、公開授業の指導案や補助資料等を含む研究報告書の作成と配布